チーム金剛中だより

令和５年 １２月号　　発行責任者 校長 岩片 啓子

寺池台一丁目1番1号　0721-29-1404　http://www.city.tondabayashi.osaka.jp/kongo/

転んでも自分で立ち上がる

28 年前「お腹の赤ちゃんの心臓が止まっているかもしれません」とお医者さんから告げられました。自分の命に代えてでもこの子を産みたい、健康でさえいてくれれば、と祈り続け、奇跡的になんとか無事に生まれてくれました。でも、健康だけを願っていたのも束の間、もっと運動ができれば、もっと英語ができれば、もっと、もっと、と親の欲が出てきました。一体どんな子になってもらいたいのか…いや、そう育てるのは自分次第だなぁとも思いましたが、そう簡単に親の思うようには育ちませんでした。

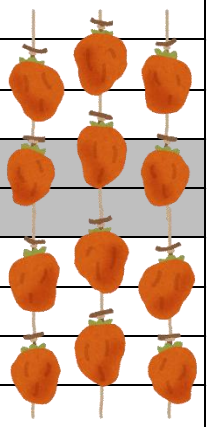
昔、保育園で、「小さいうちに、挨拶ができる子、時間を守れる子、うそをつかない子にしたいと思っている」と教えてくださった先生がおられました。子どもにどんな風に育ってもらいたいか、この仕事をしていると、何度も何度も考えます。ある時は、すぐにキレないよう、イライラして学校を飛び出さないよう、「がまん」を学んでほしいと願ったこともあります。ニュースでいろんな事件を聞くたびに、「この人がもっと別の考え方ができれば、こうならなかったのに…」と感じます。親御さんも含め、周りの大人は絶対に“人に迷惑をかけるような子”にだけはなってほしくないと思っていたはずです。どこでつまずいたのか、どこで助けを求めていたのか、わかりませんが、もっと幼児期や学齢期に気づいていたなら救えたかもしれません。

子どもがひとりで立ち上がるようになった１歳頃、転んだ時に頭を打たないよう、いつでも座布団で受け止める準備をしながらうしろから見守っていた記憶があります。走るようになった２歳頃はよく転びました。そんな時、転んでから一瞬間を置き、泣き始めたものです。「私、こけたよ、ママ助けて～」と言わんばかりに、です。抱き起こして土を払って「大丈夫！」と言うと、泣き止んでまた走り始めました。

『転んでも自分で立ち上がって前に進める子』中学校を卒業する時、こうなっていたらなんとか生きていけるだろうと思います。子どもが転ばない、ケガをしない安全な道を大人が用意するのではなく、自分で起き上がれる力をつけてほしい。受験、テスト、教室の座席、宿泊のグループ、友だち関係など、つまずいたり転んだり、嫌な思いもしながら、自分の気持ちを昇華し、しっかり立ち上がって前に進んでほしい。大人が抱き起すのではなく、少しぐらいケガをしても自分で起き上がることができるように、学校でもしっかりと寄り添い、言葉かけをしていきたいと思っています。

１２月の行事予定

日	曜	給食	部活	行　　事
1	金	×	14:20 開門	〈50分×3＋終礼10分〉入学説明会
2	土			
3	日			
4	月	×	○	金の時間割　　12月実力テスト（3年5限後下校）
5	火	○	×	〈45分×6〉会議日
6	水	○	○	
7	木	○	○	
8	金	○	○	〈45分×6〉避難訓練
9	土			
10	日			
11	月	○	○	
12	火	○	○	委員会活動（分割）
13	水	○	○	委員会活動（分割）
14	木	○	×	会議日
15	金	×	○	創立記念日　　期末懇談会①〈45分×4〉金1～4
16	土			
17	日			
18	月	×	○	期末懇談会②〈45分×4〉月12木56
19	火	×	○	期末懇談会③〈45分×4〉火1～4
20	水	×	○	期末懇談会④〈45分×4〉火56水56
21	木	○	×	水1～4、5限：総、6限：大掃除　　会議日
22	金	×	13:30 開門	終業式
23	土			
24	日			
25	月			
26	火			
27	水			
28	木			
29	金			学校閉庁日
30	土			学校閉庁日
31	日			学校閉庁日



１/　９(火)　３学期始業式

１/１０(水)　1･2年チャレンジテスト、3年実力テスト

１/２４(水)～２６(金)　３年学年末テスト